

令和6年度下水道事業評価(終了時) 一覧表

実施方針	施策目標	施策	主管課	施策目標	施策	取組内容、数値目標及びスケジュール (単年度)	①当初予算額 (千円) ②現計予算額 (千円)	決算額 (千円)	執行率	達成状況	各施策の目標値に 対する実績値 (実績値/目標値)	視点評価			総合評価	事業を実施する上での 課題及び改善方針	今後の 実施 方針	
												有効性	指標や目標値の 達成度	目的に対する実 施内容				
												効率性	業務のプロセス改 善(創意工夫)	投入した費用・労 力に対する成果	評価理由 (特記事項)			
												説明責任	意見や苦情に対 する適切な対応	情報発信の実施				
												組織学習	職員の知識向上 のための取組み	知識の伝達				
Ⅰ 快適な生活環境の実現	Ⅰ-1 生活環境の改善 や河川の水質保 全に努めます	Ⅰ-1-① 計画的な下水道 (汚水)整備の推 進	下水道建設課	生活環境の改善や河川などの水質を保全するため、下水道(汚水)の整備が進んでいない地域においては、引き続き、下水道(汚水)の整備に取り組めます。	下水道(汚水)の整備が進んでいない地域については、既に整備している地域と早期に均衡が図れるよう整備を進めるとともに、土地区画整理事業などが計画・実施されている地域では、街路整備の進捗に合わせて整備を行うほか、一定の条件を満たす場合には、先行して整備を進めます。	・下水道(汚水)の整備が進んでいない地域及び土地区画整理事業地区等に汚水管きょを9.5km整備します。 ・土地区画整理事業施行者及び他の関係機関と協議・調整を行い、効率的な工事を執行します。 ・工事施工にあたっては、他事業者と工事時期や施工方法等の調整を行うとともに、工事施工業者に対して事前に施工方法、施工体制の確認を行い、交通渋滞等がないよう市民生活に配慮します。	①1,983,725 ②2,102,717	1,715,751	82%	・下水道(汚水)の整備が進んでいない地域に、汚水管きょを6.6km整備しました。地下埋設物の影響により計画の見直しが必要になったことや区画整理事業の進捗に伴い未実施の工事等があったため、数値目標の9.5kmには届きませんでした。事業の進捗としては予定どおりです。 ・土地区画整理事業施行者及び他の関係機関と協議・調整を行い、効率的な工事を行いました。 ・工事施工にあたり、交通渋滞等がないように、事前に施工方法、施工体制を確認し、事故等もなく工事を行いました。	□下水道処理人口普及率 (89.14%/89.22%) □汚水管きょ整備 (6.6km/9.5km)	有効性	B	A	B 下水道未整備地区について、整備可能な箇所 の整備を行っていき、普及率の向上に努めます。	土地区画整理事業施行者等と協議・調整を行い、計画どおりに工事が執行できるように努めます。	現状維持で継続	
		Ⅰ-1-② 整備困難地域に おける下水道(汚 水)整備の検討	下水道建設課	生活環境の改善や河川などの水質を保全するため、下水道(汚水)の整備が進んでいない地域においては、引き続き、下水道(汚水)の整備に取り組めます。	道路幅員が狭い場合や地下埋設物の影響などにより、下水道管を埋設する工事が難しい場所については、効率的な整備方法を検討するとともに、新工法の採用について研究します。	・新工法説明会等に参加し研究を進めるとともに、情報共有を行います。 ・道路工事調整会議への出席やガス事業者等の他埋設企業からの事前協議書の確認を行い、下水道管工事に支障をきたさないよう情報共有を行います。	①0 ②0	0	一	・新工法説明会等に参加し研究を進めるとともに、情報共有を行いました。 ・道路幅員が狭い場合や、地下埋設物の影響などにより、下水道管の埋設工事が難しい場所の工法について、課内で情報共有を行いました。 ・道路工事調整会議やガス事業者等の他埋設企業からの事前協議書の確認を行い下水道管工事に支障をきたさないよう、情報共有を行いました。	□下水道処理人口普及率 (89.14%/89.22%)	有効性	B	A				
												効率性	B	B				下水道工事に係る工法等の情報共有をさらに高めていき、早期の下水道整備に努めます。
												説明責任	B	B				
Ⅱ 安全・安心な暮らしの実現	Ⅱ-1 浸水に対する安全・安心なまちづくりを推進します	Ⅱ-1-① 計画的な下水道 (雨水)整備の推 進	下水道建設課	土地利用の変化や低い土地の形状などに伴い浸水被害が発生している地域では、引き続き、下水道(雨水)の整備に取り組めます。	土地利用の変化や低い土地の形状などに伴い浸水被害が発生している地域では、雨水管きょを整備するほか、貯留施設などの整備を検討します。	・浸水被害が発生している地域に、雨水管きょを0.32km整備します。	①483,551 ②483,551	268,456	56%	・浸水被害が発生している地域に、雨水管きょを0.08km整備しました。	□整備排水区数 (4排水区/4排水区) □雨水管きょ整備 (0.08km/0.32km)	有効性	C	C	C 一部工事において、住民対応に時間を要したため、年度内の完成が見込めないことから次年度へ繰越しとなりました。 また、費用については施工にあたり経済的な手法を用いたことにより、抑えることができました。	今後、浸水対策を実施していく地域について、最も効果的かつ効果的な整備方法、整備地区を検討します。	現状維持で継続	
												効率性	B	B				
												説明責任	B	B				
												組織学習	B	B				
		Ⅱ-1-② 公共施設にお ける雨水流出抑 制の推進	下水道維持課	土地利用の変化や低い土地の形状などに伴い浸水被害が発生している地域では、引き続き、下水道(雨水)の整備に取り組めます。	公共施設の建て替えなどを行う場合には、関係機関と協議・連携を図り、地下貯留などの雨水流出抑制施設の設置を進めます。	・公共施設に広く雨水流出抑制施設を整備することにより、浸水被害の発生しにくい都市づくりに長期的かつ継続的に取り組めます。 ・公共施設に設置された雨水流出抑制施設の効用を十分に発揮させるために、公共施設管理者に対して、維持管理の周知徹底を図ります。 ・中川、綾瀬川流域が特定都市河川に指定されたことに伴い、「川口市雨水流出抑制指針・マニュアル」の改定を行います。	①14,300 ②14,300	12,859	90%	・公共施設管理者に対して、飯塚小学校をはじめ、9件の事前協議を行い、設置場所の土質・地下水位等を考慮した雨水流出抑制施設の提案を実施しました。 ・幸町第2公園など、3件の完了検査を行い、雨水流出抑制施設の効用を十分に発揮させるために、維持管理の周知徹底を図りました。 ・中川、綾瀬川流域が特定都市河川に指定されたことに伴い、「川口市雨水流出抑制指針・マニュアル」の改定を行いました。	□雨水流出抑制施設設置 (3件)	有効性	B	A	B 公共施設における雨水流出抑制施設の推進は、「川口市雨水流出抑制指針・マニュアル」により進めています。公共施設の改築等を行った際に、施工の手直しが発生する場合があるため、手直しが発生しないように、今後においても、指針・マニュアルによる理解等、施策の情報発信を積極的・効果的に進めていきます。	公共施設の建て替えなどの際に、雨水流出抑制施設を公共施設管理者に対して要請しており、今後も広く関係各課に対して周知していきます。	現状維持で継続	
												効率性	B	A				
												説明責任	B	B				
												組織学習	B	B				
		Ⅱ-1-③ 浸水対策に 対する情報提供に よる自助の促進	上下水道総務課	土地利用の変化や低い土地の形状などに伴い浸水被害が発生している地域では、引き続き、下水道(雨水)の整備に取り組めます。	浸水対策に対する情報を市民に提供することにより、市民一人ひとりの防災意識を高めます。 また、市民に対し浸水情報を少しでも早く伝えられるよう、情報通信技術(ICT)を活用した情報提供について研究します。	浸水対策に対する市民一人ひとりの防災意識を高めるため、上下水道局ホームページなどを活用した情報提供を行います。	①0 ②0	0	一	・上下水道局公式Xでの投稿や上下水道局ホームページにて災害対策をテーマにアンケートを実施し、浸水対策についての意識啓発を行いました。	□広報誌による情報提供	有効性	B	A	B より多くの市民に情報が行き渡るよう、情報媒体を増やすことで改善を見込みます。	引き続き情報収集の手段やホームページ等による情報発信の方法を精査します。	現状維持で継続	
												効率性	B	B				
												説明責任	B	B				
												組織学習	B	B				

令和6年度下水道事業評価（終了時） 一覧表

実施方針	施策目標	施策	主管課	施策目標	施策	取組内容、数値目標及びスケジュール (単年度)	①当初予算額 (千円)	決算額 (千円)	執行率	達成状況	各施策の目標値に 対する実績値 (実績値/目標値)	視点評価			総合評価	事業を実施する上での 課題及び改善方針	今後の 実施 方針	
							有効性					指標や目標値の 達成度	目的に対する実 施内容	評価理由 (特記事項)				
							効率性					業務のプロセス改 善(創意工夫)	投入した費用・労 力に対する成果					
							説明責任					意見や苦情に対 する適切な対応	情報発信の実施					
							組織学習					職員の知識向上 のための取組み	知識の伝達					
Ⅱ 安全・安心な暮らしの実現	Ⅱ-2 地震に対する防災・減災を推進します	Ⅱ-2-① 管路施設における耐震化の推進	下水道維持課	大規模地震災害時においても下水道の機能を確保するため、下水道施設の耐震化(防災対策)と被害の最小化(減災対策)を組み合わせることにより計画的な地震対策に取り組みます。	新設する管きょは、各種耐震対策指針に基づき、可とう性継手を用いるなど耐震性の強化を図ります。一方、既に埋設されている重要な管きょ、(避難所からの汚水を受ける管きょ、緊急輸送道路下にある管きょ、河川や軌道を横断している管きょ)については、優先的に管更生などの耐震化を進めます。また、緊急輸送道路下にあるマンホールのうち、液状化によるマンホール浮上の恐れがあると判定されたマンホールについては、優先的に浮上防止対策を行います。	総合地震対策計画(第2期)に基づき、令和2年度から6年度までの5年間で計画を実施します。 ・管きょの地震対策としては、耐震化工事を実施します。 ・マンホール浮上防止対策は浮上防止工事を行います。	①333,776 ②333,776	52,496	16%	管きょの地震対策として管きょ更新の更生工事を200m実施しました。 下水道管更生工事1件、マンホール浮上防止工事2件を繰越しています。	□汚水管きょ更生工事(地震対策) (200m/1,098m) □マンホール浮上防止対策率(63.8%/65.1%) □重要な幹線等の耐震化率(55.1%/57.3%)	有効性	B	A	B	財源のうち国庫補助金である社会資本整備総合交付金が、市の要求額より少ない年度もあり、年次計画に影響を受けています。引き続き、国庫補助金の交付に関して、国に要望していきます。	現状維持で継続	
		Ⅱ-2-② ポンプ場における耐震化の推進	ポンプ場管理センター	大規模地震災害時においても下水道の機能を確保するため、下水道施設の耐震化(防災対策)と被害の最小化(減災対策)を組み合わせることにより計画的な地震対策に取り組みます。	耐震性能の評価・調査診断を行い、耐震性能が不足していると判定されたポンプ場については、耐震補強を進めます。	被災による影響度が大きい施設を考慮し、領家第八公園ポンプ場の耐震診断、緑町ポンプ場の耐震補強設計を実施します。	①34,287 ②34,287	31,790	93%	領家第八公園ポンプ場耐震診断委託、緑町ポンプ場耐震補強工事実施設計委託は契約期間内に完了しました。	□ポンプ場の耐震化率(47.6%/47.6%) □耐震診断(1件/1件) □耐震補強設計(1件/1件)	有効性	B	A	B	総合地震対策計画の第2期の5年目が終了し、2カ所を除く耐震診断が完了しました。今後、実施設計委託、耐震補強工事を進める中で予定より遅れている、又は未定となっている工事について再度調整を行い円滑に進められるよう準備を行っていく予定です。	現状維持で継続	
		Ⅱ-2-③ 災害用マンホールトイレの整備推進	下水道建設課	大規模地震災害時においても下水道の機能を確保するため、下水道施設の耐震化(防災対策)と被害の最小化(減災対策)を組み合わせることにより計画的な地震対策に取り組みます。	「川口市地域防災計画」に示されている指定避難所などを対象とし、災害用マンホールトイレの整備を進めます。	・災害発生時においてもトイレが利用できるよう、マンホールトイレを8箇所設置します。 (原町小学校、飯仲小学校、上青木南小学校、芝中央小学校、芝樋ノ爪小学校、県立川口青陵高等学校、戸塚綾瀬小学校、新郷東小学校) ・工事施工にあたり学校運営に支障がないように、事前に施工方法、施工体制を確認します。	①148,579 ②149,590	149,060	100%	・災害発生時においてもトイレが利用できるよう、マンホールトイレ8箇所の整備を行いました。(原町小学校、飯仲小学校、上青木南小学校、芝中央小学校、芝樋ノ爪小学校、県立川口青陵高等学校、戸塚綾瀬小学校、新郷東小学校) ・工事施工にあたり学校運営に支障がないように、事前に施工方法、施工体制を確認し、事故等もなく工事を行いました。	□マンホールトイレ設置率(73.1%/73.1%) □マンホールトイレの設置(8箇所/8箇所)	有効性	B	A	B	来年度も予定している学校等(9箇所)にマンホールトイレを確実に整備するため、学校責任者及び施設責任者との事前調整等を実施します。また、積極的に研修等に参加することで設計の知識向上を図ります。	現状維持で継続	
		Ⅱ-2-④ 危機管理体制の向上	上下水道総務課	大規模地震災害時においても下水道の機能を確保するため、下水道施設の耐震化(防災対策)と被害の最小化(減災対策)を組み合わせることにより計画的な地震対策に取り組みます。	下水道が果たすべき機能を維持・回復することを目的とした被災時の行動計画である「川口市下水道事業業務継続計画」に基づく訓練を行い、災害に強い危機管理体制の向上に努めます。	「川口市下水道事業業務継続計画」(下水道BCP)の見直しを行い、その内容を局内職員に周知します。また、下水道BCPIに基づく訓練を実施します。	①0 ②0	0	—	・川口市下水道事業業務継続計画(下水道BCP)の更新を行い、局内職員に周知しました。 ・上下水道局において、下水道BCPIに基づき、管理部及び事業部による災害対策訓練として避難誘導訓練を実施しました。また、災害時支援関東ブロック情報連絡訓練、埼玉県下水道災害対策実動訓練に参加しました。	□避難誘導訓練(実施/実施) □情報伝達訓練(実施/実施) □実地訓練(実施/実施)	有効性	B	A	B	・川口市下水道事業業務継続計画(下水道BCP)の見直しを確実にに行い、埼玉県に報告します。 ・下水道BCPIに基づく災害対策訓練の準備を早めに進め、効果的な訓練になるよう訓練内容の検討を行います。	現状維持で継続	
Ⅲ 下水道施設の適切な管理	Ⅲ-1 管路施設の適切な管理により事故の未然防止に努めます	Ⅲ-1-② 改築情報などのデータベース化の検討	下水道維持課	流下機能の継続的な維持や道路陥没など管路施設の不具合に起因する事故を未然に防止するため、適切な維持管理を行い、計画的に改築に取り組みます。	効率的に下水道施設の維持管理を行うため、改築情報などのデータベース化を検討します。	竣工図、排水設備確認申請書、管内調査の各種情報を基に公共下水道台帳システムのデータ更新を行います。	①17,713 ②17,713	14,816	84%	当初の予定通り公共下水道台帳調製業務委託を発注し、更新を行いました。	□下水道台帳システム情報更新	有効性	B	A	B	今後予定している包括外部委託に向けて準備を進めています。	現状維持で継続	
		Ⅲ-2 ポンプ場施設の適切な管理により事故の未然防止に努めます	Ⅲ-2-② 改築情報などのデータベース化の検討(再掲)	ポンプ場管理センター	定期的な点検・調査により施設の状態を把握するとともに、修繕による施設の延命化を図りながら計画的な改築に取り組みます。	効率的に下水道施設の維持管理を行うため、改築情報などのデータベース化を検討します。	ストックマネジメント計画の一環として改築情報をデータベース化するシステムを構築します。	①0 ②0	0	—	スキャナー機能付きの大型プリンターを導入し、過去の工事図面をスキャンすることにより、CAD化を進め、今後の工事発注等に生かすことができました。	竣工図及び管内調査結果等のデータ更新を予定通り行いました。	効率性	B	B	B	紙図面のデータ化を継続的にを行い、今後の施設管理に役立つよう行っています。また、手作業のため時間を要していることから、効率的に行う手法を検討します。	現状維持で継続
												説明責任	B	B				
												組織学習	B	B				

令和6年度下水道事業評価（終了時） 一覧表

実施方針	施策目標	施策	主管課	施策目標	施策	取組内容、数値目標及びスケジュール (単年度)	①当初予算額 (千円)	②現計予算額 (千円)	決算額 (千円)	執行率	達成状況	各施策の目標値に 対する実績値 (実績値/目標値)	視点評価			総合評価	事業を実施する上での 課題及び改善方針	今後の実施 方針			
													有効性	指標や目標値の 達成度	目的に対する実施 内容						
													効率性	業務のプロセス改善 (創意工夫)	投入した費用・労 力に対する成果	評価理由 (特記事項)					
													説明責任	意見や苦情に対 する適切な対応	情報発信の実施						
													組織学習	職員の知識向上 のための取組み	知識の伝達						
IV 下 水道 事業 の 経 営 の 健 全 化	IV-1 経営基盤を強化し 経営の健全化 に努めます	IV-1-① 経営安定化の推 進	上下水道総務課	将来にわたり安定した下水道サービ スを市民に提供するため、経営基盤 の強化に努めます。	効率的な施設管理、コストの削減、建設投資 にかかる経費の平準化などを図り、下水道 事業の安定経営に努めます。また、下水道 への接続を促進するなど収入の確保に努め ます。	・事業評価およびローリングを実施し、各施策 の進捗管理を行います。 ・財政収支計画を検証し、経営戦略を改訂しま す。	①21 ②40	40	100%	・収入状況の把握に努めるとともに、事業評価(終了 時評価)を実施し、事業を実施する上での課題及び 改善方針を確認しました。 ・財政収支を検証し、経営戦略を改訂しました。	□公共下水道事業経営戦 略改訂	有効性	B	A	B ・経営戦略の改訂にあたっ ては、グラフや表を用いるな どして、わかりやすくなるよ う心掛けました。	・令和4年度から6年度まで の財政収支計画を検証する とともに経営戦略を適宜見 直します。	現状 維持 で 継 続				
		IV-1-② 適正な下水道使 用料の検討	上下水道総務課	将来にわたり安定した下水道サービ スを市民に提供するため、経営基盤 の強化に努めます。	今後、人口の減少や節水機器の普及などに よる下水道使用料(収入)の減少、施設の老 朽化に伴う更新費用(支出)の増大が想定さ れます。今後も引き続き、経費の削減や維持 管理に努めつつ健全な下水道経営を実現 するため、適正な経費回収率などを指標とし た下水道使用料について検討します。	・類似団体及び県内事業者等必要に応じ対象 事業体を抽出し、下水道使用料の調査・分析 を行います。 ・経費回収率等を比較、分析し適正な下水道 使用料を検討します。	①0 ②0	0	－	・中核市・類似団体・県内事業者の下水道使用料及 び経費回収率に関する情報を収集し、比較、分析 を行いました。 ・上下水道事業運営審議会にて下水道使用料のあり 方についての検討を進めています。		効率性	B	B							
												説明責任	B	A							
												組織学習	B	B							
												有効性	B	A	B ・更に適正な使用料水準に ついて検討を行うため、基 本水量等についても調査を 進めます。 ・経費回収率等の経営指標 や下水道使用料について 検証及び分析した内容を係 内で共有し、職員の知識及 び組織能力の更なる向上を 行いました。						
												効率性	B	B							
	説明責任	B	B																		
	IV-2 広報活動の充実 や市民ニーズの 把握に努めます	IV-2-① 広報活動の充実	上下水道総務課	下水道(汚水)を使用できる市民が 速やかに下水道(汚水)に接続して いただけるよう、積極的な広報活動 に努めます。また、下水道サービスの 向上を図るため、さまざまなイベン トなどを通じて、直接市民の声を聴く など、市民ニーズの把握に努めま す。	下水道事業の必要性や下水道の内容などを わかりやすく市民に伝えるため、市ホーム ページや広報誌などを活用した情報提供を 行うとともに、各種イベントを通じ積極的な広 報活動に努めます。また、下水道施設の見 学会開催について検討します。	・アクアプラン4-1-4「水道事業PRとお客様の 声の反映」と連携し、各種イベントに参加しま す。 ・上下水道局ホームページや上下水道広報誌 「みずぐるま」に工夫を凝らし、市民の事業に 対する理解促進を図ります。	①88 ②69	50	72%	・市内在住の小学生と保護者を対象とした「水の学習 会」(浦山ダム(秩父市)と荒川水循環センター(戸田 市)の見学)に74名が参加し、上下水道の仕組みや 大切さについて理解を深めました。 ・年次報告書を作成し、上下水道局ホームページ等 で公開しました。 ・イベント(荒川ふれあいまつり、市産品フェア、消防 防災フェア)に出席し、下水道事業をPRしました。 ・広報誌を年2回発行し、下水道事業の財政状況・経 営状況・汚水処理等について掲載しました。掲載に あたっては写真や図を活用し、理解に繋がるよう努 めました。 ・上下水道学習用パンフレットを市内小学校4年生及 び水の学習会参加者に配布しました。	□上下水道広報誌の発行 2回(8月号・2月号) □イベントへの参加 3回(荒川ふれあいまつ り、市産品フェア、消防防災 フェア)	有効性	B	A	B ・SNSを活用し、イベントや 災害派遣などについての情 報を発信しました。	・お客様の下水道事業への 理解に繋がるよう、ホーム ページ、SNS、広報誌、各種 イベントにおける広報方法 を工夫します。	現状 維持 で 継 続				
												効率性	A	B							
												説明責任	B	A							
												組織学習	B	B							
		IV-2-② 市民ニーズの把握	上下水道総務課	下水道(汚水)を使用できる市民が 速やかに下水道(汚水)に接続して いただけるよう、積極的な広報活動 に努めます。また、下水道サービスの 向上を図るため、さまざまなイベン トなどを通じて、直接市民の声を聴く など、市民ニーズの把握に努めま す。	住民説明会や各種イベントへの出展・参加 などを通じて、直接市民の声を聴くなど、市 民ニーズの把握に努めます。	・イベントや上下水道局ホームページを活用 し、アンケートを実施します。 ・アンケートの意見を各事業に反映できるよう、 内容、集計方法を検討します。	①0 ②0	0	－	・上下水道局ホームページやイベント(荒川ふれあい まつり・市産品フェア)にてアンケートを実施し、下 水道事業の取組みの周知度を把握するとともに、お 客様のご意見・ご要望を収集しました。 ・上下水道局ホームページでのアンケートやイベン ト実施の際は、上下水道局ホームページやSNSを活用 し、広く周知しました。また、イベントでのアンケート では、昨年度に引き続き、紙のほかスマートフォンで も回答できるようにしました。		有効性	B	A	B ・SNSを活用し、上下水道 局ホームページでのアン ケートやイベントなどに ついての情報を発信しました。	・より多くの意見を収集し、 各事業へ反映できるようア ンケートの周知方法や集計 方法を引き続き検討しま す。	現状 維持 で 継 続				
												効率性	A	B							
説明責任												B	A								
IV I 下 快 水 適 道 な 事 生 業 活 の 環 経 境 営 の 実 健 現 全 化	I-1 生活環境の改善 や河川の水質保 全に努めます	I-1-③ 下水道接続率の 向上	下水道維持課	生活環境の改善や河川などの水質を 保全するため、下水道(汚水)の整備 が進んでいない地域においては、 引き続き、下水道(汚水)の整備に取 り組みます。	下水道(汚水)は、市民に接続されてはじ めてその効果(生活環境の改善や河川などの 水質保全)を発揮します。さらに、下水道接 続率を向上させることは、資産の有効活用 や下水道使用料の収入確保にもつながるこ とから、戸別訪問などによる接続促進活動 を行います。また、下水道(汚水)に接続す ための工事費用に対する支援の拡充につい て検討します。	・職員による戸別訪問を実施し、水洗化率(人 口)の向上を図ります。 ・私道共同排水設備整備補助などを実施 し、水洗化率(人口)の向上を図ります。	①72,000 ②72,000	50,012	69%	・新たに下水道供用開始となった区域の世帯と任意 に選定した地区の下水道未接続世帯に対し、切替工 事の案内を戸別配布(864件)しました。 ・私道共同排水設備整備補助金は10件(新設8件、 布設替2件)、水洗便所改造資金補助金は242件(市 内業者の工事90件、市外業者の工事152件)に対し、 補助しました。 上記を行ったことで、水洗化人口は2,606人増加し、 水洗化率(人口)は、前年度比0.02%増の94.36%と なりました。	□水洗化率 (94.36%/94.78%) □戸別訪問(配布) (864件) □私道共同排水設備整備 補助金申請 (10件) □水洗便所改造資金補助 金 (242件)	有効性	B	A	B 業務のプロセス改善に関し て、上下水道局ホームペ ージアンケートの結果によ ると、補助制度を知らない方 が未だ多いことが分かりま した。令和7年度は、補助 金の申請期間内にある世 帯に改めて戸別配布を行 い、切替工事を促進して参 ります。	本市では、下水道処理区域 外においても宅地化が進ん でおり、既に汲み取り方式 や浄化槽で排水処理をして います。一般的に下水道へ 切替える際には、自己負担 となる工事費が新規で接続 するよりも高額となるため、 切替えへの躊躇が水洗化 率向上の足かせになってい ると思われますが、今後も、 周知・啓発や戸別訪問を続 け、関係する皆様のご理解 とご協力を得ながら、下水 道未接続世帯の解消に努 めて参ります。	現状 維持 で 継 続				
		IV-1 経営基盤を強化し 経営の健全化 に努めます	IV-1-③ 下水道接続率の 向上(再掲)	下水道維持課	将来にわたり安定した下水道サービ スを市民に提供するため、経営基盤 の強化に努めます。							効率性	B	B							
																			説明責任	B	B
																			組織学習	B	B

令和6年度下水道事業評価(終了時) 一覧表

実施方針	施策目標	施策	主管課	施策目標	施策	取組内容、数値目標及びスケジュール (単年度)	①当初予算額 (千円) ②現計予算額 (千円)	決算額 (千円)	執行率	達成状況	各施策の目標値に 対する実績値 (実績値/目標値)	視点評価			総合評価	事業を実施する上での 課題及び改善方針	今後の 実施 方針	
												有効性	指標や目標値の 達成度	目的に対する実 施内容	評価理由 (特記事項)			
												効率性	業務のプロセス改 善(創意工夫)	投入した費用・労 力に対する成果				
												説明責任	意見や苦情に対 する適切な対応	情報発信の実施				
												組織学習	職員の知識向上 のための取組み	知識の伝達				
ⅣⅢ 下水道事業設 の経営切 の健全理 化	Ⅲ-1 管路施設の適切な 管理により事故 の未然防止に 努めます	Ⅲ-1-① 計画的な維持管理 および改築の 推進	下水道維持課	流下機能の継続的な維持や道路陥 没など管路施設の不具合に起因する 事故を未然に防止するため、適切な 維持管理を行い、計画的に改築に 取り組みます。	下水道施設の計画的な維持管理および改 築を行うため、ストックマネジメント計画を策 定し、膨大な下水道施設の状況を客観的に 把握、評価することで、長期的な状態を予測 しながら、計画的かつ効率的に下水道施設 の管理を行い、建設投資にかかる経費の平 準化を図ります。	・青木・横曽根・中央・南平地区において老朽 管きょ3,000mの布設替え、管更生工事を実施 します。 ・管きょの清掃を行うほか、青木、横曽根区域 の管内調査を実施します。 ・汚水取付管や人孔蓋等の破損による小規模 改修工事を実施します。 ・ストックマネジメント計画(第2期)を策定しま す。	①954,909 ②983,722	823,448	84%	管きょの布設替及び管更生工事については、数値目 標3,000mmに対し1,760mm実施しました。 管内調査、人孔点検及び清掃については当初予定 通り工事・委託を行いました。	□管路施設の改築済延長 累計(SM計画) (63,016mm/64,800mm) □各年度改築延長 (1,760mm/3,000mm)	有効性	B	A	B	限られた財源の中で、引続 き管きょの改築延長が延伸 できるように工事発注を 行っています。	現 状 維 持 で 継 続	
		Ⅳ-1 経営基盤を強化 し経営の健全化 に努めます	下水道維持課	Ⅳ-1-④ 計画的な維持管理 および改築の 推進(再掲)								効率性	B	B				
												説明責任	B	B				
												組織学習	B	B				
	Ⅲ-1 管路施設の適切な 管理により事故 の未然防止に 努めます	Ⅲ-1-③ 人材の確保と民間 活用手法の研究	下水道維持課	流下機能の継続的な維持や道路陥 没など管路施設の不具合に起因する 事故を未然に防止するため、適切な 維持管理を行い、計画的に改築に 取り組みます。	職員に対する研修の充実や資格取得を積極 的に促進するとともに、必要に応じ、組織体 制の見直しについて検討します。また、適切 な維持管理を行う手法の一つとして、下水道 施設の維持管理に関する民間活用について も研究します。	管路施設の維持管理における効率的な民間 活用の検討を行います。 ポンプ場施設の維持管理における効率的な民間 活用の検討を行います。	①2,078 ②2,078	1,350	65%	・管路施設の維持管理に関し、先行事例等を参照し 民間活用についての情報収集を行いました。 ・ポンプ場施設の維持管理における民間活用手法に ついて研究を行いました。 ・有料研修の実績については、延べ25人が14講座を 受講し、下水道事業体の職員としての見識を広げま した。 ・職員(9名)が前年度の実践職員などからアドバイ スを受けながらBPRに取り組み、その内容を局内で共有 しました。	□外部研修受講 (14講座25人)	有効性	B	A	A	・今後も積極的に局内各課 へ情報提供を行い、研修の 受講や資格取得を促してい きます。 ・引き続きBPRを実践し、職 員一人ひとりが日常的に BPRに取り組む風土の醸成 を図ります。	現 状 維 持 で 継 続	
		Ⅲ-2 ポンプ場施設の 適切な管理により 事故の未然防止に 努めます	Ⅲ-2-③ 人材の確保と民間 活用手法の研究 (再掲)	ポンプ場管理セ ンター								定期的な点検・調査により施設の状 況を把握するとともに、修繕による施設 の延命化を図りながら計画的な改 築に取り組みます。	効率性	B				B
		Ⅳ-1 経営基盤を強化 し経営の健全化 に努めます	Ⅳ-1-⑤ 人材の確保と民間 活用手法の研究 (再掲)	上下水道総務課								将来にわたり安定した下水道サービ スを市民に提供するため、経営基盤 の強化に努めます。	説明責任	B				A
												組織学習	A	A				
	Ⅲ-2 ポンプ場施設の 適切な管理により 事故の未然防止に 努めます	Ⅲ-2-① 計画的な維持管理 および改築の 推進(再掲)	ポンプ場管理セ ンター	定期的な点検・調査により施設の状 況を把握するとともに、修繕による施設 の延命化を図りながら計画的な改 築に取り組みます。	下水道施設の計画的な維持管理および改 築を行うため、ストックマネジメント計画を策 定し、膨大な下水道施設の状況を客観的に 把握、評価することで、長期的な状態を予測 しながら、計画的かつ効率的に下水道施設 の管理を行い、建設投資にかかる経費の平 準化を図ります。	・荒川町ポンプ場2号ガスタービンベント弁補修 工事ほか3件の補修工事を実施します。 ・ストックマネジメント計画における更新工事 (丁張橋中継ポンプ場機械設備更新工事ほか 3件の更新工事)を実施します。 ・寿町ポンプ場2号ポンプ更新工事ほか5件の 更新工事を実施します。 ・ストックマネジメント計画(第2期)を策定しま す。	①902,368 ②1,085,506	609,508	56%	下記3件の工事は実施しませんでした。 ・丁張橋中継ポンプ場機械設備更新工事 ・丁張橋中継ポンプ場電気設備更新工事 ・寿町ポンプ場2号ポンプ更新工事 下記1件の工事は次年度に繰越を行いました。 ・元郷排水ポンプ場コントロールセンターほか更新工 事 その他の工事と委託は完了しました。	□機械設備改修事業着工 済み施設数 (5件/5件)	有効性	B	A	B	今現在でも部品生産の遅 れに改善傾向が見えず不安 がありますが、老朽化した 電気・機械の更新工事は 今後も継続的に発注を行い ます。	現 状 維 持 で 継 続	
												効率性	B	B				
		Ⅳ-1 経営基盤を強化 し経営の健全化 に努めます	Ⅳ-1-④ 計画的な維持管理 および改築の 推進(再掲)	ポンプ場管理セ ンター								将来にわたり安定した下水道サービ スを市民に提供するため、経営基盤 の強化に努めます。	説明責任	B				B
												組織学習	B	B				